

## **SUGAI Hidehiro 【須貝 英大】 キャプテン**

長いようで短かかったドイツ遠征が終わり、自分としていい経験をたくさんすることができた。言葉の面では、なかなか英語が話すことができず、ジェスチャーで会話することが多かった。自分たちでバスの切符を買うときは正直疲れた。自分の気持ちを表現して時間がかかったが、なんとか買うことができたその後の運転手さんなどの対応もとても優しく、気持ちが楽になったことを思い出す。

試合では自分よりも身体が大きいということで、どうすればいいかたくさん考えた。試合の中で少し受身になり、チャレンジができなかつたことが反省である。やはりどの相手チームの選手は、個々の打開力があり、シュートまでの時間が短いことが印象的だった。日本人にはない力強さを強く感じた。

ブンデスリーグの試合を観てもそうである。愛しの雰囲気、観ているサポーターの試合にかける想いなど絶対に勝つという強い意志がものすごく伝わってきた。

サッカーをする環境を見てドイツではサッカーが一つの文化となっているような気がした。生活面では失くした・・・とか、何かを忘れた・・・とか少し気が緩んだ時があった。自分もそのひとりである。朝、集合時間に遅れてしまったときは『やっっちゃった！』と焦った。集合時間が遅いということで少し油断してしまった。反省すべき点である。しかし、大きな事件というのではなく、チームみんなと楽しんで買い物・食事などをすることができた。とても楽しかった。ドイツに来て自分が一番驚いたことはコミュニケーションのとり方である。バスの中や、電車の中でも席を譲ったり、直ぐに困っている人がいたらなんの躊躇もなく助けてあげたり、他人の人と話したりなど、日本人にはない積極性を感じられた。自分ももっともっと自分の意思をしっかり伝えられるような人間になっていきたいと思った。

このドイツ遠征で慣れない閑居の中で生活したり試合をしたりして成長した気がする。頭を常に使い、どうすればうまくいくかを今まで以上に考えるようになった。

これから高円宮杯まで、このドイツ遠征で学んだことを土台にして1回1回の練習を大事にしていきたい。もっともっとチームをひとつにまとめて、絶対高円宮杯に優勝する。

みんなの残りの日々を大切にして絶対優勝しよう！！

## **遠征を振り返って**

**1**



## **TERADA Takuyoshi 【寺田 拓義】**

ドイツ遠征でははじめての経験をし、多くのことを学びました。サッカーでは相手のスピード、体格が自分より上の中を考え、素早く判断しなくてはならない・・・山梨や日本で通用しているプレーでも、一歩海外へ出てみると、まだまだだと思うプレーがたくさんありました。特に感じたことは常に周りを見てプレーし、早い判断が必要だということです。僕は縦のパスコースが空いているにも関わらず、外へ逃げるパスをしたり、判断が遅く、相手の守備のポジションがそろってしまいパスコースがなくなり困ってしまうことがありました。自分なりに強いチームとやることで自分の足りない点がわかったので改善していきたいです。またその中で相手パスのインテーセプトや、前線での攻撃に周りゴールにつながるプレーもできたので自信も持つことができました。

初めて見るブンデスリーグでは、日本では味わえないサポーターの熱狂、プレーの質を間近で観て興奮しました。そんな中、昼ご飯のファンタを11個頼む時に『イレブン、が通じず焦りました！

買い物ではもちろん日本語が使えないため、英語やジェスチャーで伝えました。ドイツ人は優しく、親切に対応してくれました。

このようにこの遠征は、サッカー・生活面を上達させる上で、貴重な体験となりました。これからも全力で頑張っていきたいです。



## HAYAKAWA Ippei 【早川 一平】

# 遠征を振り返って 2



まず9日間の内飛行機で2日過ごしました。最初飛行機ではドイツまで11時間かかり長くて退屈でした。着陸時に期待が大きく揺れてほとんどの人が初めての飛行機ということもあって大騒ぎとなった。ドイツについてみんな写真を撮りまくりでした。

ドイツでの一番の目的は、サッカーです。観光も大事だけど・・・サッカーです。4試合やっていい試合ができたと思います。観光では、サッカーと違い、みんないい顔でドイツの街を巡っていました。僕的には自分たちで昼ごはんを食べる時に苦労しました。ドイツ語がわからないので、ジェスチャーや片言の英語を混ぜて伝え注文しました。あとは家族や自分のお土産などを買いました。自分的にはドイツ滞在中の中では、ブンデスリーグのレバーケーゼンvsグラッドバッハの試合が一番思い出に残っています、やっぱりJリーグとはレベルが違いました。選手のチームにかける想い、サポータのチーム・選手に届けたい想いなどが融合してスタジアムが盛り上がり一丸となっていて、すごく興味深かったです。試合だけではなく、僕たちが試合をしていたグラウンドも日本と違って、全部の会場が人工芝でシャワー付きのロッカールームもあり、日本とは文化も歴史も違うなと感じました。

この9日間ハブニングもありました。朝起きてから7時半過ぎていて、その日の集合時間が7時半で、キャプテンが起こしに来てくれて、焦って外へ飛び出しました。今では懐かしい思い出です。

いろいろありましたが、このドイツ遠征を終えて親へのありがたみがわかつた気がしました。お母さんの作った料理が食べたくなった時がたくさんありました。サッカー面ではドイツの選手と対等に戦えました。フォルトゥナの選手を見て自分の未熟さを知りました。そのことに気づかせてくれたのもドイツに来れたからだと思います。ドイツに来れてみんないい経験ができたと思います。この遠征を終えてよりチームの絆が深まったと思います。



## KAGAYA Shin 【加賀谷 横】

僕はこの遠征を通して、はじめての経験をたくさんし、そして多くのことを感じました。時差や食事・言葉などいろいろな違いがあって苦労した。でも慣れてくるとコミュニケーションをとるのが楽しくなってきて積極的にしゃべれたことが良かった。僕はこの遠征で2日連続で寝坊し遅刻した。なのできちんと反省をしてこれからは寝坊しないようにしたい。サッカー面では、課題についていた『前へ向かうプレー』が意識して出来て良かった。でもフィジカルが上なドイツの選手にビビっていたところもあったし、そういう相手だったらもっと頭を使って考えてプレーすることが必要だと思った。ブンデスリーグ観戦では、1部2部でも関係なく3万4万のサポーターが集まるに驚いたし、スタジアムの熱気やプレーも日本のJリーグとは全然違うなと思った。そしてこの中でプレーしてみたいとすごく思いました。

この遠征を通して、自分は本当に多くの人に支えられているとあらためて感じた。自分のために、大金を出して送り出してくれる家族がいる・・・旅行を計画・安全を確保してくれる皆川さん、旅行会社の方、ドイツのユルゲンさんなど・・・そして現地で優しく接してくれたドイツの人たち、そしてfの仲間・・・本当に全ての人に感謝したいし、おかげで最高の想い出を創ることができた。僕はまたドイツに行きたいと思った。このメンバーでまた行くことができたら最高だけど、次は選手としてドイツへ行けるよう頑張っていきたい！！



# 遠征を振り返って ③



## MIYAGAWA Mizuki 【宮川 瑞希】

僕は今、ドイツ遠征を振り返ると、とても良い経験ができたと感じています。フォルトゥナの仲間と飛行機に乗り、海外の選手とサッカーをし、ドイツを観光し・・・多くの経験ができました。

ドイツ人とは言葉も通じず、みんなと単語を出し合い協力し、話したのがとても印象的で楽しい時間でした。食事面でも驚くことがたくさんあり、食べきることが大変でしたが、それも良い経験でした。

私はドイツ遠征に行き、海外の選手と戦うことで多くの自信を持つことができました。こんな経験もできたのも両親、フォルトゥナの仲間、皆川さん、多くの方々のおかげです。本当に感謝しています。ドイツで多くの学んだことを活かして夢に向かい頑張りたいです。またフォルトゥナの仲間とドイツへ行きたいです。



## HASHIMOTO Takumi 【橋本 匠】

僕にとってドイツ遠征は、ドイツサッカーを身を持って体験できたことだけでなく、ドイツ人の優しさや文化を感じられたことも意味深いものでした。特に莊厳な装飾で施されたケルン大聖堂からはキリスト教の精神を重んじる中世ヨーロッパ文化の雄大さを、ブンデスリーガ観戦では国民に強く根付いたサッカー文化を感じられたことはとても貴重な体験でした。

最後に私はこの遠征を通して異文化に触れるることは人生において非常に重要なことであると感じたので、大学進学後は積極的に海外旅行に出かけたりして世界中の文化を吸収し自分の価値観を広げていきたいと思うます。



# NONAKA Yuta 【野中 裕太】

ドイツ遠征が終わりました。本当に短く感じました。ドイツではたくさんのこと学びました。たくさんの経験がありました。本当に全て満足しています。

ドイツは、基本的に過ごしやすい環境で、気温は25度前後でした。朝、起きて朝ごはんを食べ、バスに乗り目的地へ・・・これが毎日の流れでした。バスも日本のものとは全く違い、長く2連のバスがありました。

サッカーでは5試合ありました。勝ったり負けたりでした。特に自分がもっと頑張ろうと思った試合は、4試合目5試合目です。4試合目は前半勝っていたのに後半失点をし同点で終わったこと、チャンスもあり突き放せる場面もありましたが、決定力に欠けました。あらためて決めるところは決めないと、こうなってしまうと実感できた試合でした。5試合目は11-1で勝った試合です。ボランチで出場したけど、関わりが少なかったので次はもっと頑張りたいです。

2試合観戦したブンデスリーグは、Jリーグとは全く違い、すごく迫力がありました。いつか自分もドイツのブンデスリーグの試合に出場し得点を決めたいと感じました。

そしてドイツ遠征に来て感じたことの最後は、チームの団結力です。これがあったから、試合で勝つことができたし、さまざまな活動も予定通り無事行えたと思います。

ドイツで学んだことを活かし頑張りたいです。

遠征を振り返って

4



## 編集後記

まずははじめに、この珍道中の完成が大変遅くなってしまったことに対し、子ども達はもちろん、保護者の方々にもご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。やっと完成することができました。今回は9日間という日程でサッカーもまたピッチ外の活動も盛りだくさんになり、珍道中に収めきれない事柄もあるかな…と思っていましたが、作成を始めるとやはり、どんな小さいことでも割愛することはできず、毎日の時系列に沿って起こった事柄、ゲームの内容等を画像を中心にまとめていきましたので、例年と同様ボリュームも大きくなってしまいました。しかし、3年前の選手たちがどんな表情でドイツの活動を行っているか、また日記をとおしてどんな風に感じて記載しているかなど、今のそれぞれの選手(子ども)と比べながら見てみるもの楽しみ方のひとつかもしれません。この珍道中をご覧になり、選手たちはもう一度ドイツに行った気分になってくれたらな、またご家族の方々にはお土産話をたくさん子ども達から受けたこととは思いますが、子どもの視線とは違った角度、私なりに観た感想やら想いを記してありますので、新しい発見があることを期待してドイツ滞在中の活動をご覧になっていただけたらと願っています。

今回の遠征にご協力をいただきました全日空の森様・千葉様、ドイツ滞在中にお世話になった美野村様、VfB03HildenのMr.Bender・Mr.Jur・その他スタッフの方々、子どもたちを遠征に快く送り出していただきましたご家族の皆様本当にありがとうございました。そして何より私のプレッシャーに・仕掛けに物怖じせず、ポジティブにチャレンジし続けた選手たち、君らが共にいなければ、今回の遠征は成功しなかったし、良いものにならなかつたと心から感じています。本当にありがとうございました。

今は18歳、高校生活を追え、大人への入口です。それぞれの将来に夢を求めて、ジュニアユース時代に多くチャレンジしたことをもう一度思い起こし、一歩づつ前進するために全力であきらめずに活動をしてください。

皆様のこれからのお躍を心より期待しています。

2017年2月10日

フルトゥナサッカークラブ

代表 皆川 新一

